

吉田 伊三郎

Isaburo Yoshida

第94代県議会議長に就任され多忙な中、取材の機会を得て議長室でインタビューに答えていただいた。

山積する課題を一つ一つ解決し 福井県の方向性を定めていきたい。

Q 議長就任にあたっての抱負をお聞かせください。

本県には原子力発電所の安全対策をはじめ、敦賀までの延伸が認可された北陸新幹線の早期完成、舞鶴若狭自動車道や中部縦貫自動車道の整備促進といった重要な課題が山積している。さらには、人口減少・少子高齢化、経済・雇用、農林水産業、教育など、将来の本県を見据えて早急に対策を講じなければならぬ様々な課題を抱えている。

こうした中、議長に就任させていだいて責任の重さを痛感している。山積する課題

を一つ一つ解決しなければ福井県の方向性が定まらない。できることを一生懸命やっていきたい。特に、今後の日本の原子力政策の方向付けは、国内最多の原発が立地する本県の姿勢が重要になるが、会派ごとに意見が違いため、これをどのようにまとめていくかが私にとって一番難しい課題になると思う。

現在の第17次民主議会はこのような重大な局面の中、2年目を迎えたところであるが、それぞれの議員は県民の皆様への負託に応えるべく、重要課題を十分審議することはもと

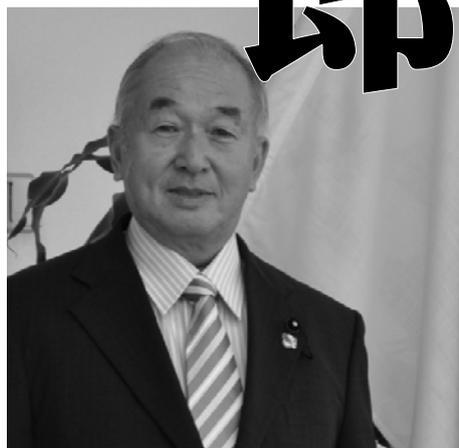
より、積極的な提案を行いたいと思っている。私は、議長として県民の皆様に開かれた県議会づくりを進めるとともに、県民の意見が県政に反映されるよう最大限の努力をしていく。

Q 北陸新幹線の敦賀までの延伸が認可されましたが

本県の総力を結集してがんばってきた北陸新幹線整備はようやく敦賀までの延伸が認可され、いよいよ県内に新幹線の槌音が本格的に響くことになる。敦賀開業は、平成26年度末の金沢開業から概ね10年後の平成37年度とされており、

今後は北陸地域間に大きな格差が生じないように、少しでも早い敦賀までの完成・開業に向け、様々な努力をしていく一方、大阪までのフル規格による全線整備を求めていくことが重要である。

新幹線をバネに、県、市、町や企業、県民一人ひとりが協力し、新幹線を活かしたまちづくり、観光誘客、企業誘致などを進め、元気な地域、元気な福井県を創っていかなくてはならない。県はその先頭に立って様々な事業の機運づくりに応援をし、これから10年後に備えての新しいまち



Profile 昭和18年2月21日生まれ。若狭農林高校卒。平成9年三方町議選当選。2期目の平成13年4月議長就任。平成15年4月県議初当選。現在3期目。副議長、総務教育常任委員長、原子力特別委員長などを歴任。平成24年9月議長に就任。69歳。若狭町海山。